

# 景気動向調査

## サービス業の業況感、依然として減少傾向を示す

令和2年7～9月 中小企業景況調査 結果報告書

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。令和2年7～9月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。  
 ※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5業種200社が対象で、今回の回収率は70.0%でした。

### 【主要な表現について】

○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。

○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

### 管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲51.5で前回(2020年4月～6月)より8.9ポイント改善  
 サービス業(▲73.5ポイント)を除き、他の産業で業況DI値の改善傾向を示しました。  
 全産業売上高の推移：前回の▲66.0ポイント(2020年4月～6月)から9.2ポイント改善しました。  
 サービス業は▲74.3ポイントで、課題としてコロナウイルスへの対応が挙げられました。  
 全産業資金繰りの動向：前回の▲33.1ポイント(2020年4月～6月)から3.9ポイント改善しました。  
 建設業は23.8ポイント、その他産業はマイナス値を示しました。  
 全産業採算の動向：前回の▲55.6ポイント(2020年4月～6月)から3.8ポイント改善しました。  
 全産業は依然として足踏み傾向を示しました。  
 全産業雇用人員の動向：前回の1.5ポイント(2020年4月～6月)から8.5ポイント減少しました。  
 特に製造業は▲14.8ポイントと人手不足感が強まりました。

表1 業種別業況判断の動向

